

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075800195
法人名	社会福祉法人 内野会
事業所名	グループホーム嘉穂
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市鴨生476番地6 (電話) 0948-42-1555

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年11月27日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年1月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤	1人, 常勤換算	6.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(光熱水道費)200円/日	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	78歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西野病院 / 松岡病院 / 稲築病院 / 西川歯科 / 平野歯科 / 金丸病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営するグループホームである。グループホームの理念は「家庭的な環境のもとで、心身の機能訓練を行い、能力に応じ可能な限り、自立出来るよう支援する」とし、職員には、入居者と一緒に暮らす家族という意識を持ち、日々のケアやサービスの提供を行っている。同一敷地内に同法人が運営する介護老人保健施設シルバークア嘉穂が立地し、緊急時におけるサポート体制があり、また、行事やレクリエーションなどへの参加もできるため、多様な楽しみごとや交流・ふれあいの機会が多い状況にある。運営推進会議も定着化してきており、毎回14・15名の参加があり、多様なテーマで意見交換を行い、運営に反映できるように努めている。今年度は、リハビリテーションによるADLの維持・向上や頭の体操・外出・外食の充実など、変化のある暮らしを楽しんでいただくことを目標に管理者・職員が共に一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域密着型サービスとしての理念、地域とのつきあい、チームで作る利用者本位の介護計画に関して、今後の取り組みに期待したい項目として挙げられ、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の評価項目については、主任が中心となって職員全員で話し合いながら取り組んでいる。また、法人の施設長にも協力と理解を仰ぎ、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、ホームドクター・薬剤師・地域代表・入居者・入居者家族の参加があり、入居者家族には全員に声かけをして参加していただくように取り組んでいる。内容は、行事や活動報告・サービスやケアの実施状況・地域との連携・薬の正しい飲み方など多様なテーマで意見交換を行っている。出された意見などは運営に反映できるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	法人全体の情報誌を年4回発行しているが、グループホーム独自では発行していない。日頃から家族とは連絡を密にとるようにしており、面会時には入居者の状況を詳しく報告するようにしている。また、運営推進会議は入居者家族全員に参加を依頼しており、会議の中で家族に意見や意向などを言っていたりする機会として活かし、出された意見などは、運営に反映できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	グループホームが介護老人保健施設の奥にあり道路から遠いため、近所との連携が取りにくい状況があった。近所の方とは朝夕の挨拶から始めたが、最近は山菜やお花をいただける付き合いができるようになった。また、町内会の廃品回収などの地域活動に参加したり、地元の中学校や高校の職場体験の実習なども受け入れ、地域との連携を大切に活動を行っている。今後は、運営推進委員の中に、介護相談員の方がおり、この方の協力を得て地域との連携を更に高めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年3月の事業報告に「地域密着型サービス」の意義について報告があり、地域社会との継続が重要である点を明確にしている。事業目的と運営方針の中に「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」とあり、具体的には社会参加の機会を設けるなど取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや2ヶ月に1回の会議でケアの基本として理念について話し合い、個別ケアを「寄り添って、ゆっくり、一緒に」行うことを基本に入居者の生活を支え、理念と共に日々認識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の廃品回収や牛乳パック回収などの地域活動に参加している。また、朝夕の挨拶や庭に咲いている花などをいただいたり、地元の中学校・高校の職場体験実習など機会あるごとに受け入れ、地域との関係を大切にに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価報告書をもとに職員で話し合い、改善に努めている。自己評価についても主任が中心となり話し合い、職員一人ひとりに気づき生まれ、評価の意義を理解し取り組んでいる。また、運営推進会議で外部評価結果の報告を行い、ホームの実状を報告している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行われている。メンバーはホームドクター・薬剤師・地域代表・入居者・入居者家族で構成されている。入居者家族には全員に声かけをして参加していただけるよう取り組んでいる。内容は行事や活動報告・サービスやケアの実施状況・地域との連携・薬の正しい飲み方など多様なテーマで意見交換を行っている。出された意見などは運営に反映できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点や相談など電話や訪問により連携を密にし、質の向上に繋げている。現場の実態を把握していただき、相談やアドバイスを受ける関係を築いている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度の必要な方はいないが、入居者や家族の状況により制度についての説明を行っている。また、社協などが行う研修会に参加し学ぶ機会を得ており、権利擁護の理解を高めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃からの連絡は密にしているが、特に面会時には入居者の状況を詳しく報告するようにしている。また、入居者に心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時は家族にすぐに連絡を取るようにしている。家族にとって何でも話しやすい関係づくりを心掛け、迅速な連絡を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など平素の会話の中で意見や不満などが気軽に言える雰囲気づくりに努めている。運営推進会議には、家族の参加を呼びかけ、意見や意向を言っただけの機会として活かし、出された意見などは、運営に反映できるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職も少なく異動もほとんどない。離職や異動に備えて入居者のダメージを防ぐために入居者とのなじみの関係に配慮し、ダメージを防ぐ取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、面接時に施設の概況や内容をよく説明し理解してもらっている。性別・年齢を基準にしていない。高齢者に対して理解がある方で体力のある方などを優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	サービス会議やリーダー会議などで人権教育や啓発活動に取り組んでいる。また、職員が人権教育・研修に参加できるように支援している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新任職員にはビデオやマンツーマンで指導をしている。中堅職員にはスキルアップのため、介護福祉士・ケアマネジャーなどの資格取得ができるように受験のためのテキストの準備や勉強会を行っている。職員一人ひとりの長所を見出し、そこを伸ばしていく取り組みを行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	連絡会で情報交換などを行っている。ネットワーク内で共通の問題に対し解決に向けて、協働で具体的な取り組みを行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居相談時には必ず見学をしてもらい納得した上で入居していただけるように取り組んでいる。また、複合施設のため、相談員や他のサービスの責任者とも連携を取り、多様に対応できるように努めている。グループホームになじんでいただくまでは、まずは受けとめ、よく聞く・安心してもらうなど家族の協力を得ながらコミュニケーションを図る取り組みを行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者が高齢化しており徐々にできることが少なくなってきているが、一部分でもできることは行っていただくよう支援している。女性の入居者が多いので、料理や食材の準備などは能力発揮や役割の場としてとらえ、職員と共にできることを行っている。教えてもらったり、手伝ってもらえるという関係の中で助け合い、支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の希望や意向の把握に努めている。入居者の行動などで新しい発見がある場合は、記録に残すことで全職員に周知できるようにしている。常に説明の上、理解・納得していただけるように配慮している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	プラン策定に際しては、入居時のアセスメントや日常の会話・家族との会話より生活歴などを把握し、介護計画に活かしている。入居者の意向や同意を得ることなども配慮している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月～6ヶ月を1サイクルとして見直しを行っている。入居者に状態変化が生じた場合は、入居者・家族・職員と話し合い、現状に即したプランを作成している。計画の見直しについては、介護職員と共に検討し、内容を関わる関係者で周知している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者や家族、また入居希望者などの相談に応じ、入居者の意向にそって柔軟な支援を行っている。複合施設のメリットを活かし連携により、行事参加やリハビリなど多様な機会を取り入れ、変化のある暮らしを支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者や家族の同意を得て、自由に希望する病院に受診してもらっている。病状によっては、看護師が同行し、医師の指示や服薬の留意点などを把握し入居者の健康管理を行っている。必要に応じてホームドクターや専門病院の受診による指示や助言を得ている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重症化については「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しそれに基づいて実施している。特に入居者や家族の意思を尊重し、ホームドクターやかかりつけ医の指示に従い、看護師と連携を取りながら対応している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者の生活歴や性格に合わせた声かけを行い、入室の際にはロックや声かけを行いプライバシーに配慮している。記録については個別ファイルを作成し事務室に保管・管理している。個人情報保護に関して、どんな小さな情報も大切に、取り扱う習慣を身につけるよう努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	1日のスケジュールは決まったものではなく、本人の性格に合わせて自己決定ができるように引き出している。面会時間・外出・外泊も自由で制限していない。入居者のライフスタイルやペース、その日の体調や希望などを考慮し、ゆったりとした時間の流れにそって過ごしていただくように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は季節感や鮮度にこだわり、生ものは当日買い物に行き購入している。家庭菜園の野菜をいただくことも多く、新鮮で美味しい食事を提供できるように努めている。また、外食も楽しみにしていただけるように取り組んでいる。食事の手伝いは野菜の下ごしらえや下膳など自分では職員と一緒に食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	高血圧症や不整脈の方が多いため、体の無理のない範囲で入居者の習慣やその日の体調・希望にそって入浴支援を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日の暮らしの中で、入居者の生活リズムにそって、できることを行っていただくように支援している。(植木鉢の草取り・野菜の皮むきなど)		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の平均年齢89歳と高齢化に伴い、日常的な外出が難しい状況がある。毎月1～2回は、ドライブや外食などを楽しんでいただけるように支援している。今後は、個別の外出などの回数を増やすことを期待したい。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	門扉・玄関・居室には鍵をかけていない。玄関のみセンサーをつけている。外出の察知や外出傾向を把握し、さりげなく見守りをしたり一緒に外出している。職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	緊急連絡網や避難訓練マニュアルを作成し、それに基づいて実施できるように訓練している。また、同一敷地内にある介護老人保健施設に協力を依頼している。今後は夜間の緊急時などを想定し運営推進会議などで、地域の方の参加を得る取り組みが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事の摂取状況は、チェック表に記載し把握している。献立については、法人の管理栄養士にアドバイスを受け、美味しく食べていただけるように取り組んでいる。運営推進会議の議事録に入居者が料理の好みを話す場があり、入居者の嗜好を把握するように努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間は和室と洋室があり、天井が吹き抜けである。広々としてゆったりした空間となっており、窓も広いので遮光カーテンなどにより光を調整している。和紙で作られた照明や季節の花々など、家庭的で温かみがある、居心地のよい空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は広くトイレとクローゼットが備え付けられている。ベッド以外は入居者が自宅で使用しているなじみの物を持ってきていただいている。入居者は思い思いの物を持って来ていただき、居心地よく暮らせるように配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			